

めし屋「サヨ」

元店主安武清左右衛門さん(75)

わしゃ、めし屋をやめとうなかつたんだ。でも、年取っ所に移ったのは戦後だが、ツたし、学生相手だ、値段も上ケを私わん学生は愛わらずられん、人も雇えん。しよよ上げおった。そのくせ「おらがなく、三年前に二女夫婦。じさうも娘面につげん一杯」の居酒屋に衣替えしたんだ。だ。こっちも娘面につげんか昔ながらのめし屋は、ほんつた。わしゃ、学生倒れだよと云なかつた。おやじが死(笑)。ま、働かにならんんだり、コレに押しされたり。寂しいねえ。

わしが九大相手のめし屋を始めたのは、まだ大正時代、下げてくるんだ。うれしね。昭和五年。箱崎キャンパス。そそ、長女の高子(映画会社「スカウト」にきたほど)開いた店で働いたんだ。昔の美人は、学生によく好か学生は、農家馬小屋の上なれが、いはいおった。両親日にや、大学の先生の上で、と一緒「下ささい」というの四斗鐘に徴収したんだ豚汁も、ね。

学生時代からの客の九大教授で、よく来てくさいから謙望も希望も昔は店の職場に赤電話があ

時代は流れて姿消す

つてね、用もないのに「電話配達させられました。セーラカして」つて入り込んで、高一服のまま、自転車。当時子さんを拜みにいくやつが、の学生さんは生気にあふれて、おがれを感じました。清左右衛門さんの妻、村子さん(母)嫁あって高子が西鉄ライオンスの田中久寿男(強肩の右腕手、現ロッキンカウト)に嫁いだ時、学生さんが寮に来るのが楽しみでねんに呼び出されて「強制結婚え。セーラ服が見えたら来でしようか」つて問い詰められたんで。かわいそうに、たまたまよ。



今は二女夫婦の店の裏方に回った安武清左右衛門さんと村子さん夫婦

その人、あとでひとで落ち込んで... 再び清左右衛門さん わしや毎朝四時に起きて、戦友の漁師の船でタイを釣ってる

高子さん 父は「九大生に安くてうまいもんを食わせ、困を担う人物になつてもらう」が口癖でした。私は高てね。おかけて、客は相変わらずから帰ると、いつも九大構内、の学生寮にスイカなんかを

天相学食!!